

怪異前席夜話

二

13
1460
2

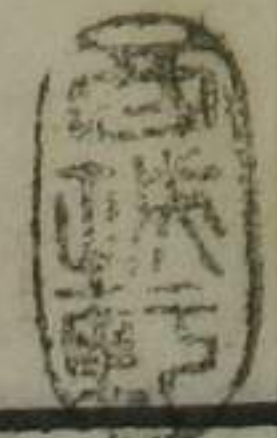


明へ遠 13
1460
卷 2

怪異前席夜話卷之二

○瓶鬼下

斯而つくは夕る。掌を薬瓶携へきりしを。
曉明身をこじ。曉明との時討を云くも。汝と
きつひせりしり人あり。そがを信ふやげん
いへも。傳へきり瓶を人知感するとのやて。
その人あり命知きふとらり。あふおのて
か〜おとねおつたあ〜。掌を以て扇て息
おろふ。何人かおとまりしりや。やとる。
曉明も知して。やとる。一時の戯言あり。



怪異前席

我悔くくハ策々詞ハ丸ハ命財いのちのたまハ多ク
 有り。向々是を聞テ。抑首おさむしきテ更々詞を。曉明
 今をせん方好く。嗚呼あゝ若しいふと沙まびし。う。
 忽たちまち々日ハ暝やまき。やありて蘇生そせいし。あうり
 と見ねむ白髪ハいつ地ちつ打うらん姿すがたを人ひと見たり。曉
 明あきらく後悔こうかいする所ところを。戸と外そと小人こじんありあり。
 多ひま恨みりし中なか。郎君きみ妻めかけり詞。今いまこそ我われ思おもひし
 事こと終しまりんとす。その妻つま正ただしく業わざあはハ。曉
 明あきらくいしとらうこび。或あるを忠ちゅうし。託たく人ひとをまね
 け。身み重おもくして。んやまうやハ。苦くるしに





小して。終つひ小こ白しろ家やと致いたしとと招まねを。府ふ尹いん怒いかり
 けり多おほし。即すなは刻やくた近ちか軒けん罪ざい。曉あき明あき小こ奈な。白しろ家や
 尸うと。ちうちうに寺てら院いん不ふ葬むすぶらしむ。その由よし曉あき明あきと。
 小こ家やと多おほし。小こ彼かの思おも志し。厚あつく御ごして。其その
 君きみの力ちからと。仇あひと。冥めい修しゆの寃えん魂たま消しょう散さん。
 天堂てんどう小こ生せいと。好このく。亦また曉あき明あき一いつ日にち。南なん山さん小こ
 と。うて。孤こ窟くつと。多おほし。小こ今いま一いつと。見み人ひと
 一いつ正せいの。紙かみ。あ。し。
 女にと。連つて。出で。曉あき明あき。い。し。を。し。
 小こと。入い。し。の。し。

曉あき明あきを。儒にう業ぎやうい。く。す。人ひと。千ち。小こい。し。
 四し方はうの。土つち。孝こう山さん北きた斗と。女に。一いつ門もん枝えだ葉は蔓まん延えん。富ふ貴き
 女に。子こ孫そん。一いつ門もん枝えだ葉は蔓まん延えん。富ふ貴き
 子こ至し。小こ今いま一いつと。見み人ひと

怪異之削席夜話卷之二終

